

# 貴方が利用出来る

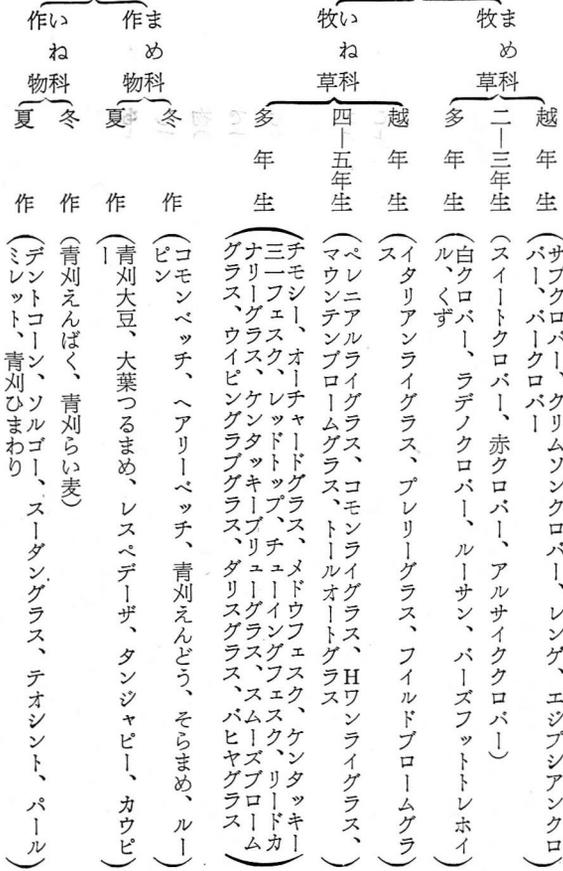
## 飼料作物の種類は、

こんなに沢山あります。

一つの飼料作物で一年中の自給飼料を生産することは出来ません。土地により利用の目的や時期により、あるいは含まれている養分により、いくつかの飼料作物をえらんで上手に使わなければなりません。人間が長い間かかつて選び、改良してきた飼料作物は、次のように沢山あります。

どれも使い方が正しければ、すぐれた飼料となります。自分の土地の地力を考え、青刈にするか、放牧するか、あるいは貯蔵するかなど利用の目的も考えて、もつとも都合のよいものを選んで下さい。

### 牧草類



### 根菜・葉菜類

- 根菜類 (かぶ、ルタバガ、ビート、人参、さつまいも)
- 葉菜類 (レープ、CO、ケール)
- その他 (ボンキン、飼料木)

飼料作物の養分とフスマの養分を比べて見れば!!

家畜が、乳肉卵を生産するためには、あたえた餌の量ばかりでなく、含まれている養分が大切です。水分、蛋白質、澱粉質、鉱物質、ビタミン等のどれが不足しても、家畜は生産も出来ませんし、病気になるてしまいます。飼料作物には、いろいろの養分がふくまれておりますから、適切に組合せて、腹一杯たべさせれば安心です。主な飼料作物の1キロ中に含まれている飼料單位(澱粉質の養分)と蛋白質の量を比べて、フスマ1キロ分の養分をとるためには、夫々何キロあたえれば良いかを、比べて見ましょう。

青刈とフスマの養分くらべ

作物名	生草1キロ中の飼料單位		フスマ1キロ中の飼料單位		フスマ1キロの養分をとるためには、生の青刈作物何キロ(飼料單位)とすれば良いか(主として蛋白質で)
	飼料單位(FU)	可消化純蛋白質(%)	飼料單位(FU)	可消化純蛋白質(%)	
赤クロバ (早刈)	0.143	0.021	0.80	0.113	赤クロバ約 5.5キロがフスマ1キロ分
ルーサン (早刈)	0.133	0.024			ルーサン 約 5.0キロ同
ラデノクロバ	0.110	0.019			ラデノ 約 6.0キロ同
チモシー	0.185	0.015			チモシー 約 7.5キロ同
オーチャードグラス	0.175	0.010			オーチャード約11.0キロ同
イタリアンライグラス	0.167	0.013			イタリアン約 8.5キロ同
デントコーン (青刈)	0.100	0.004			デント 約 8.0キロ(但し飼料單位で) 28.0キロがフスマ1キロ分
青刈えんばく	0.143	0.012			えんばく 約 9.5キロ同
家畜かぶ	0.080	0.004			かぶ 約 10.0キロ(但し飼料單位で) 28.0キロがフスマ1キロ分

(種子価格は 17~18 頁に) (価格は送料共の価格です)



# 飼料作物は

## いつ播きいつ刈るか？

家畜は毎日休みなく餌をたべます。従つて、あなたが飼料作物を作るときは、年中連続的に収穫出来るようにするか、収穫出来ない期間の分は、乾草やエンシレーシとして貯蔵しなければなりません。又飼料作物の中には、播種期間の長いもの、生育の極めて早いものがありますから、この性質を利用して、二毛作、三毛作と多毛作をすることも出来ます。これは、水田の場合は稲作と組合せて、畑作の場合は、他の畑作と組合せても行うことが出来るのです。下の図は主な飼料作物の播種期と収穫期を示しています。勿論、寒地と暖地では違います。これは暖地に於ける大体の基準を示したものですから、青刈出来るまでの生育日数と照し合せて、あなたの飼料作物作付計画をたてて下さい。大体のまきどきと収穫時期を示すと次の通りです。

秋まきー冬どり (九、十月) (三、二月)  
 秋まきー春どり (十、十一月) (二、四月)  
 春まきー夏どり (二、四月) (六、七月)  
 春まきー夏秋どり (四、五月) (八、十月)  
 こうして飼料作物の種類をえらび、場所をきめ、反当収量の予想をたてて、家畜の頭数に応じて、栽培面積を決めて置けば、あなたは一年中、あわてることなく、あなたの家畜にタッピーと自給飼料をあたえることが出来ます。

作物名	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
牧草類	混播	播	牧	草								
青刈作物	ラデノク	ロバ	イタリ	アライ	グ	ラス	えんば	く	ら	い	む	ぎ
根菜類	レー	フ	CO	ケ	ール	とうも	ろこ	し	ひま	わ	り	青刈
	大豆	スー	ダン	グ	ラス	テ	オ	シン	ト	れん	げ	ビ
	ト	カ	バ	ガ	ル	タ	バ	ガ	ル	タ	バ	ガ

△ 播種期  
 □ 移植  
 ▨ 収穫期

さあ、これからが牧草や冬作青刈作物のまき時です。以下秋まき飼料作物の特性やまき方を御紹介しましょう。

### 牧草をまく時は

#### こんな注意を守りましょう

- ① 土地の準備  
 良い土地には良い牧草を、悪い土地には丈夫な牧草を入れよう。
- ② 雑草や灌木は出来るだけ除いておく。
- ③ 酸性土壌には充分石灰を入れる。石灰は肥料として牧草に吸収され、家畜のため役立つ。
- ④ 二播種  
 ① 種子は良いたねをえらび、まめ科牧草のたねは硬粒があるから軽く砂と混ぜて揉み、傷をつける。  
 ② まめ科牧草中、ルーサン、スイートクローバー、ルーピンなど始めての土地では根瘤菌をつける。  
 ③ 播種量は基準によつてきめるが、整地不十分のときは、播種量を多い目にする。  
 ④ 砕土、整地をよくし、覆土は深すぎないようにする。軽い土ではやや深く、重い土は浅くする。  
 ⑤ 播種は条まき、ばらまきとする。雨のあとのように、土壌水分の多いときにまく。
- ⑥ 三肥料  
 ① 多収を期する輪作内の草地の場合は、堆厩肥をすきこむか、前作の残肥を利用し、初期生育を促すために化学肥料も施す。  
 ② 山野の草生改良の場合は、化学肥料を主体に施し、初期生育を促進する。